Young Carers Action
Research Project
REPORT 2022-2024

YCARP
活動報告書

2022年度 — 2024年度

Young Carers Action
Research Project
REPORT 2022-2024

YCARP 活動報告書
2022年度—2024年度

2025年2月発行

編集責任：YCARP 事務局
立命館大学人間科学研究所内

※本報告書は、日本財団助成事業「子ども・若者を権利主体とする包括的な子ども・若者ケアラー支援モデルの開発」の成果を中心とする3年間の活動をまとめたものです。

発行：子ども・若者ケアラーの声を届けようプロジェクト
（YCARP：Young Carers Action Research Project）

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

Report 1

活動趣旨と理念

子ども・若者ケアラーの声を届けよう プロジェクト（YCARP）について

YCARP（Young Carers Action Research Project）は、子ども・若者ケアラーへの支援について、ケアラー本人の立場から意見や具体的な活動を提案・発信していく活動です。2024年6月には、改正子ども・若者育成支援推進法のなかで、ヤングケアラーが支援対象として明文化されました。

私たちは、こんな人にこんなことを支援してもらえたらいいな、こんな活動があったら参加してみたいなど、ケアラー本人をまんなかにして、アイディアを形にしていくことをめざしています。

YCARPでは、活動のなかで大事にしている3つの対話があります。

1 当事者同士の対話

ほかの当事者の経験をききながら、子ども・若者ケアラーの多様性について理解を、ともに深めていきます。

2 当事者とサポーターとの対話

これからどんな支援・どんな社会をつくっていきたいか、ともに深めていきます。

3 自分との対話

いままで自分では気づかなかったことや言葉にできなかったことについてともに深めていきます。

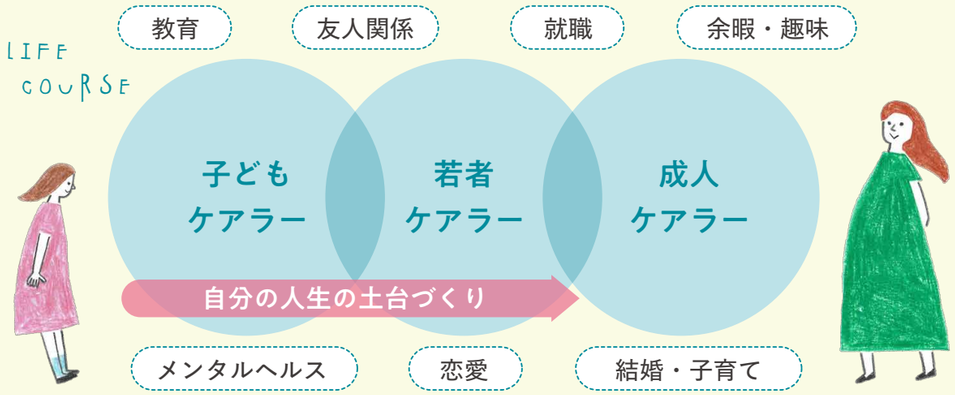
YCARPでは意識的に、「ヤングケアラー」ではなく「子ども・若者ケアラー」という言葉を使っています。

「ヤングケアラー」というと、日本で流通している用語では“人生の限られた一時期、特に青年期にケアを担う”という、年齢によって区分されるようなイメージがつきまといます。

しかし、「ケア」というものは長期に及ぶ可能性があるものです。

小さい頃から大人になるまでずっとケアを抱えているなど、子ども・若者の現時点の生活だけでなく、将来の人生設計全体に計り知れない影響を及ぼします。

私たちは、子ども・若者への長期的かつ一貫した支援が必要である、という立ち位置の表明として、連続性を示す「子ども・若者ケアラー」という用語を使うことにしています。



Report 2

年表（活動のあゆみ）

2017

3月
斎藤が発起人となり、京都市ユースサービス協会と協働して「子ども・若者ケアラーをテーマとした事例検討会」を開始

2018

2019

2020

2021

2022

9月
YCARP発足・キックオフミーティング

3月
『子ども・若者ケアラーの声からはじまる──ヤングケアラー支援の課題』出版をもって、「子ども・若者ケアラーをテーマとした事例検討会」が発展的解散

4月
YCARP日本財団助成事業開始

9月
YCARP1周年記念イベント「子ども・若者の『声』を聴く」

2023

2月 イギリス視察

2~3月
日本版ヤングケアラーアクションデー「子ども・若者ケアラーの『声』を社会に発信する」

9月
YCARP2周年記念イベント「当事者を真ん中に据えた支援とは？―関西でのピアサポート活動に学ぶ―」

2024

2月 北海道視察

3月
日本版ヤングケアラーアクションデー「イギリスに学ぶヤングケアラー支援―当事者同士のネットワークがもつ意味」

9月
YCARP3周年記念イベント「ヤングケアラー支援法制化を迎えて──18歳以降も含めた地続きの支援を考える」

2025

12月
国際シンポジウム「イギリスに学ぶ子ども・若者ケアラー支援」

Report 3

活動内容

3-1　社会発信活動

定例ミーティング

2021年のキックオフイベントを皮切りに、毎年オンラインで当事者の声を届ける場をつくってきました。ミーティングの前半では子ども・若者ケアラーの当事者や支援者、ケアラーに関わる活動をしている様々な立場の人の話をきき、後半では当事者同士、サポーター同士、そして当事者とサポーターでディスカッションをおこないます。ミーティングでは、ケアラーの多様性を知ってもらうことや支援者が指示的な立場にならないことを大事にしながら運営してきました。

シンポジウム

YCARPが発足した９月に毎年記念シンポジウムを開催してきました。シンポジウムは対面とオンラインのハイブリッドで開催し、当事者の声を届けるだけではなく、ヤングケアラー支援に関わる各団体との意見交換などをおこない、これからの子ども・若者ケアラー支援について考える場をつくってきました。

国内シンポジウムの様子（2023年9月）

また、日本版ヤングケアラーアクションデーと銘打ち、毎年２月から３月頃に国際シンポジウムを開催してきました。海外から登壇者を招聘し、海外の取り組みを紹介しながら日本のヤングケアラー支援について考える機会を届けています。

国際シンポジウムの様子（2024年３月）

国際シンポジウムの様子（2024年12月）

2024年12月は、３年間の集大成として、イギリスからヤングケアラー研究の第一人者であるSaul Becker（ソウル・ベッカー）教授、Sheffield Young CarersのCEOであるSara Gowen（サラ・ゴーウェン）さんをお招きし、国際シンポジウムを開催しました。シンポジウムに先がけて、お二人は、関西のヤングケアラー支援団体のみなさんとも交流され、貴重な意見交換ができました。

「おりおりのいえ」視察 with Becker教授＆Gowen氏（2024年12月）

当事者の安心・安全な語りに向けた取り組み

当事者中心の情報発信をめざすなかでは、当事者にとって研修や講演等で安心・安全な語りの場が十分に守られることが大前提です。ガイドライン作成をスタートにして、当事者の安心・安全な語りの場をつくるための講習会を実施しました。すでに当事者の語りが展開されている社会的養護や依存症支援の領域から講師をお迎えし、ご講演をいただきました。

IFCAから講師を迎えて開催（2023年10月）

神戸ダルクから講師を迎えて開催（2024年７月）

3-2　社会資源開発活動

若者ケアラー向け社会資源の開発

18歳をすぎてもケアはつづくという点を踏まえて、若者ケアラー向けの社会資源を開発してきました。特に、自分のことを後回しにしてきたケアラーがケアと自分の人生に向き合うときに、まずは自分をまんなかにおいて考えられる時間と空間と関係性が必要であるとの認識をもって取り組んできました。

〔余暇支援〕

2022年には宇多野ユースホステルで、2023年には休暇村近江八幡で秋のキャンプを試験的に開催しました。

※本事業は日本財団の助成事業ではありません。

宇多野ユースホステルにて
焚火と音楽を楽しむ様子（2022年10月）

休暇村近江八幡にてBBQを楽しむ様子
（2023年10月）

〔居場所、居住支援〕

ケアを理由に実家を離れることが難しいケアラーが一時的にケアから離れられるような居場所・居住のあり方を民間団体（ひきこもり居酒屋、NPO法人芹川の河童、公益財団法人京都市ユースサービス協会）と連携して模索してきました。

ユースカフェよるやすみの様子
（2023年11月）

ユースショートステイ
「おりおりのいえ」の個室

〔若者ケアラーのつどい〕

10代～20代でケアを担っている・担ってきた若者世代が互いの経験を共有する場としてオンラインで開催してきました。家族のことはもちろん、学校生活、家を出ること、働くこと、身体のこと、恋愛や友人関係、将来のことなど、ケアと自分の人生を考えるときに出てくる様々な悩みや折り合いのつけ方について話し合ってきました。

当事者とともに考える支援者向け専門職養成講座

「わたしたちのことをぬきにわたしたちのことを決めないで」という想いから、コメンテーターである当事者とともに支援のあり方についてじっくり考える支援者向け専門職養成講座をおこなってきました。

講座の様子

ワークショップを通じた
当事者と支援者の対話の様子

3-3　研究活動

YCARPは立命館大学人間科学研究所のプロジェクトとして、発起人の斎藤と当事者メンバーを含む若手研究者を中心に、研究成果に基づく社会活動・実践の展開をおこなっています。

視察

〔イギリス視察〕

2023年２月13日～２月19日に他国に先駆けて1990年代よりヤングケアラー研究・支援をおこなってきたイギリスを視察し、主に、家族まるごと支援と子ども・若者ケアラーの当事者参画に関する考え方や実践について学びました。

Sheffield市議会議員である
Paul Bromfield氏との面会

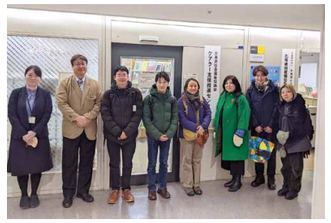
Carers Trustの
Andy McGowan氏との面会

Sheffield Young Carersの
スタッフたちとの面会

The Children's Societyの
Helen Leadbitter氏との面会

〔北海道視察〕

2024年２月４日～２月７日に、ケアラー支援条例を制定した自治体調査の一環として、北海道を視察しました。



北海道ケアラー支援推進センター
を訪問

北海道保健福祉部子ども応援
社会推進監の野澤めぐみ氏との面会

函館少年鑑別所を訪問

学会等での口頭発表

・日本子ども虐待防止学会（2023年11月26日）
「子ども・若者ケアラー（ヤングケアラー）に関する当事者参画型アクションリサーチ」

・Young Carers Alliance主催ウェビナー Young Carers Voices - International perspectives （2023年6月9日）
“The current situations and issues surrounding young carers in Japan, and our project team, YCARP”

・6th Transforming Care Conference
（2023年6月27日）
“Public interest in Young Carers in Japan: Issues of support for carers in the Familialistic Welfare Regime”

日本子ども虐待防止学会にて

Transforming Care Conferenceにて

インタビュー（2023年６月26日）

Saul Becker氏へのインタビュー

Saul Becker氏と
YCARP研究メンバーとの記念撮影

ホームページに
インタビュー記事
を掲載しています。

Report 4

YCARPへの応援メッセージ

高岡里衣さん（元ヤングケアラー）

YCARPはアカデミックでありながら、真の当事者目線を追究してくれる団体だと感じています。「安心・安全な語りのための講習会」など当事者のニーズに沿うイベントを定期的に企画され、集まった意見を社会に反映させるべく動いてくださる実行力を頼もしく思っています。

ヤングケアラーについて、まだまだ正しい理解が広まっているとは言えないので、ぜひ今後も感情論だけでも机上論だけでもない、実のある取り組みを期待しています。

平井登威さん（発起人／NPO法人CoCoTELI理事長）

YCARPが3年間おこなってきた「子ども・若者ケアラー（ヤングケアラー）」当事者の声をまんなかに据えた研究・社会発信・支援モデルの開発は、ヤングケアラーへの注目が大きい社会のなかでとても大きな意味をもっていたと思います。常に当事者の声をまんなかに据えることは決して簡単なことではないなかで、そこを徹底する姿勢に感銘を受けました。ここから先の展開もとても楽しみです！

竹田明子さん（サポーター／京都市ユースサービス協会 ケア事業担当統括）

日々ケアラー支援の情勢が変化するなか、立ち上げ期から、若者ケアラーの「声」を一貫した軸とした活動から学ぶことがたくさんあります。若者期ゆえの「葛藤支援」が打ち出されたことは特に、勇気をもらいました。いっしょに資源開発をしているレスパイト拠点としての「ユースショートステイ」事業は、ケアからの距離化のなかで、休息機会として、また自分の葛藤に向き合う時間としても意義を感じています。

八木尚美さん（サポーター）

当事者をまんなかにしてサポートするというのはとても大切ですが、同時に困難さも伴います。特に家族の介護は家族ごとにケアのグラデーションがあり、ケアの軽いや重いでははかれません。また、子ども・若者ケアラーをこういう人と一律に捉えることで、スティグマを生み出す可能性があります。子ども・若者ケアラーの声を届けようプロジェクトは、そうした課題に配慮しながら活動をおこなっています。今後も、彼らの声を大切にする活動を応援しています。

山村和恵さん（サポーター／立命館守山中学校・高等学校　養護教諭）

YCARPは子ども若者の権利を主体とし「ひとりにさせない」という理念のもと、丁寧に当事者の声を拾い、サポーターや社会との繋がりや問題提起とアクションを起こしている団体です。現在ではその活動を通じ、サポーター同士の繋がりが生まれています。そして定期的なミーティングで聞くケアラーの声は、多くを語らない現在進行形のケアラーの心の声へと繋がっています。応援を超えて、共に歩みたくなる仲間がひとりでも増えますように！

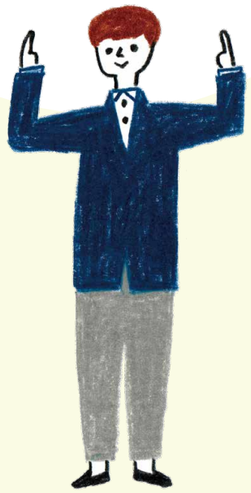
Report 5

事務局メンバーの今後の抱負

Member

亀山裕樹

当事者や研究者としての視点をもって、北海道から部分的にお手伝いをさせていただきました。当事者の声をまんなかに据えるYCARPの理念と実践は、声が軽視されたり消費されたりすることもある状況で、とても重要だと考えています。今後も、実践に根差したガイドライン等の作成や理論の構築に携わることができたら嬉しく思います。



Member

河西　優

この３年、ヤングケアラーに関する社会動向はめまぐるしく、YCARPの活動も日々更新される情報を得ながら模索をつづけてきました。活動で明らかになってきた、18歳以降もつづくケアラーの人生をどのように支えるかという課題をふまえて、今後も理論と実践を往復しながら、社会資源の開発に注力していきたいと思います。

Member

斎藤真緒

“nothing about us without us”という言葉に示されているように、当事者をまんなかにおいた子ども・若者ケアラー支援のあり方を模索してきました。ケアラーの「声」はどのように発せられるのか、何が十分に語られていないのか、声を聞く側の姿勢やかかわり方には何が必要なのか。まだまだ分からないことも山積みですが、今後もケアリング・ソサイエティ（ケアに満ちた社会）の実現に結実する実践的研究を進めていきたいと思います。

Member

古谷友亮

2023年の秋からYCARPの取組に関わらせていただき、今は事務局スタッフとして活動しております。シンポジウムや視察への参加を通して、様々な実践が模索中で試行錯誤が繰り返される段階であると感じました。私は大学院生として、YCARPの一員として、自分なりの視点をもちながら「ケアラー当事者をまんなかにした活動」に取り組んでいきたいと思います。

Member

武石卓也

3年間サポーターの立場、そして事務局スタッフとして携わってきました。私が感じる団体の特長は当事者との対話を通して活動できることです。支援者だけで考えていると気づかない視点をもらい、ハッとすることや自分の実践や考え方を振り返ることができます。当事者を中心にすえているからこその実践をこれからも大事にしていきたいです。